



Mitsui V-Net

Mitsui Volunteer Network Center

三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.46

2011年7月1日発行

辛亥革命百年にあたり、 三越の留学生支援を想起する

千葉大学国際教育センター
准教授 見城 悌治

三井V-Netが、日ごろから様々なご助力をくださっていることに対し、千葉大学の留学生支援交流担当教員として、改めて深甚の謝意を表したく思います。

さて、筆者は歴史学を専門としていますが、その研究過程で知った辛亥革命時の三越による中国留学生支援の逸話を、紙面をお借りし、紹介させていただきたく思います。

1911年秋、辛亥革命が始まった際、千葉医学専門学校（旧制）には40名余りの清国留学生在籍していました。彼らは人道的支援に専心する紅十字（赤十字）隊を組織し、救援に赴くことを決定しますが、その思想に共感した千葉医専教職員たちは、緊急医療講義や義捐金募集を行い、彼等を送り出しました。その留学生が東京周辺の医薬留学生と合流し、横浜港へ向かう途上、日本橋の三越呉服店で茶菓の饗応などを受けていたことが、新聞紙上に見えます。また『三越』^{ほなむ}（当時の広報誌）1911年12月号にも、「紅十字軍を饒けす」と題する文章が掲載されています。その一部を現代語に訳して紹介してみましょう。

「清国の医学留学生たちが、国家の乱に心を痛め、同胞のケガを治すため、健気にも紅十字隊を組織し、日本人の同情ある支援の下で出発する門出に、いつ

も日常必需品を買い求め、慰安休息の場としていた三越呉服店に別れを告げるため来店した。当店では日ごろの好意に感謝し、記念撮影や旗の贈呈をした。三越は、留学生たちが政治的争闘の圏外に立ち、博愛慈善の事業に尽瘁し、再び日本に戻り、来店してくれることを切望する」云々。

「株式会社三越呉服店」と社名が変わり、専務の日比翁助が「アメリカのような百貨店にする」と宣言したのは、1904年のことですが、1911年12月のこの記事からは、清国留学生たちが三越に頻繁に出入りしていたこと、また三越が「博愛慈善」への協力を惜しみなくしていたこと等を知ることができます。

大陸に渡った千葉医専留学生は、医療活動を終えた1912年春には皆復学しました。そのとき彼らが建てた「辛亥革命支援感謝の碑」は医学部内に現存し、その歴史を今日に伝えています。一方、歴史の地層に半ば埋もれた状態であった三越による支援も、辛亥革命百年を機縁にぜひ再認識されるべきと考えています。それは、現在の三井V-Netの諸活動が百年先に伝えられていくことを、確実に後押しすることにも繋がっていくでしょう。

三越と紅十字隊



皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層に対してボランティア活動を紹介・仲介・斡旋するとともに、三井V-Net独自のボランティア活動を企画・立案・実行することによって、シニアの豊かで健康な生きがいを感じられるよう支援を行い、三井グループ全体の社会貢献活動に資することを目的としています。

ボランティア活動会員登録に関しては入会金および年会費等は不要です。
活動の詳細ならびにボランティア活動登録票は、以下ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>

活動会員登録票は本部または支部までFAXでご送付ください。

本部（東京）TEL：03-5570-2181 FAX：03-5570-8035 関西支部（大阪）TEL：06-4396-8680 FAX：06-4396-8681
中国支部（広島）TEL：082-222-5101 FAX：082-222-5101

留学生との交流

松原 弘明（三井化学 OB）

3月11日午後2時46分、東大国際センターの談話室は突然立ってられないほどの激しい揺れに襲われました。私はちょうどカナダ人留学生（ポストドクター、30歳）ジェームズ君と会い、いつものようにテキストをひろげようとしたその瞬間でした。



書棚から花瓶が落ち床で飛び散り、壁際のパソコンが今にも倒れそうになる中、私達は他のボランティアグループの方達と急いで屋外に避難しました。昨年11月に来日してまだ4ヶ月ばかり、日本の生活に不慣れなジェームズ君は、はじめての地震でしかも東日本大震災という未曾有の大地震を体験し本当に驚いた様子でした。日常の挨拶や、簡単な会話を勉強し、今はひらがなを一生懸命おぼえようと頑張っている彼にとって、「じしん」という日本語は一生忘れないことでしょう。

私にはもう一人一対一交流している中国人留学生（修士課程、25歳）がおります。王さんとは2年程前から毎週のように会い、日本の文化、習慣、歴史などについて、時には英語や、共通文字である漢字筆談をまじえ話しております。「関東と関西の境界線はどこですか？」とか「日本の小学校の運動会ではどうして赤組と白組なのですか？他の色もあるのに・・・」とか、私達が普段思いつかないような質問を受け驚くことが多々あります。とにかく好奇心旺盛な彼等と会い、色々話をするのは私にとっても本当に楽しい時間です。

私自身も若い頃ドイツ駐在員として赴任した際、ドイツ語の研修のため2ヶ月間南ドイツの田舎町にある学校（ゲーテ・インスティテュート）に通いました。下宿先のおばさんや近所の農家の人達と片言のドイツ語で交流しました。あの素朴で親切な人々のことが、美味しいビール、ソーセージの味とともに忘れられない楽しい思い出となっております。

留学生の皆さんが、この素晴らしい日本に滞在中、出来る限り多くのことを学びかつ体験し、日本のことを本当に好きになってくれることを心から願っております。

そして私のボランティア活動が少しでもその役にたつてくれますように！

ユウレイ会員から活動会員へ

宮崎 泰雄（三井住友銀行 OB）



今、2005年春に三井V-Netのボランティア会員募集に応募した書類を見えています。東大柏キャンパスへの最終移転が2006年3月であり、留学生増加に対応したボランティア増員であったようです。

早速会員になりましたが、“ユウレイ会員”で、何も貢献をしていませんでした。柏部会からは、定期的に案内を頂きながら勤務のため活動できず、いつも恐縮していました。昨年6月の退職を期に、やっと晴れて“活動会員”になれて、昨年11月から中国からの留学生との一対一交流をスタートさせました。この留学生は、コンピューター解析専攻でしたので、経済・社会方面の理解を深めたいとの希望があり、週1回の交流では関連新聞記事を材料に意見交換を行いました。例えば、“断捨離”“人民元の今後”“高騰する原油や金価格”などを取り上げ、教室では習わないことであり興味を持って理解して頂きました。一対一交流は、当方にとっても異文化を知る良い機会にもなりました。

この留学生は、この3月に博士号を取得し卒業し、日本の研究機関に就職し、短い期間でしたが、一対一の交流は終了し、今後は、EMAILでの交流を続けることにしました。今は別な中国からの留学生との一対一交流を続けています。

ボランティア応募は、海外勤務中に息子が現地ハイスクールでスムーズに学習が出来たのは、現地の方々のご支援のおかげであり、日本では逆の立場でお役に立ちたいとの思いからです。人と人との交流で、相互認識が信頼になればと思います。

病院案内ボランティア

前田 正道（三井化学 OB）

広尾にある日赤医療センターのロビーで案内ボランティアをやりだしてもう14年目になります。始まりは当事業団からの紹介によるものです。週1回午前中という短時間ですが、我ながらよく続いていると思います。何故でしょうか。



誰でも出来る単純なことをしてあげても人から



人と人のまんなかに。

感謝されるというのは、当人にとっても気持ちの良いものです。自己満足とか偽善とかボランティアに対する批判は数多くありますが、そんなものはクソクレー!その証拠に三井V-Net所属の我が仲間ボランティアは14人いらっしゃいますが、殆どが何年も続けている方々ばかりで、おやめになる方は転居とか体調の問題があったごく少数の方だけです。

実際何をしているのか、少しご紹介しましょう。日赤医療センターは2010年初めに新建物に変わりました。電子カルテへ繋ぐため、再来の患者さんは先ず再来受付機という機械に自分のカードを入れ、登録をしなければなりません。このお手伝いから始まります。新築の病院になってから、この再来受付機で処理が終ると、呼出し機という携帯電話をひと回り大きくした機器が出てきて、これを患者さんに携帯してもらいます。携帯用のビニールケースにこの呼出し機を入れてあげるといいう作業が加わりました。更に会計も自動精算機で大半が処理されるので、この機械の案内もあります。その他、何科は何処?採血は?食堂は?ATMは?等という問合せにも丁寧に答えるのはいうまでもありません。

書いてみると何か難しそうなのですが、要は慣れです。どなたでも出来ます。仲間の7割は女性です。「手ごたえ」と「張り合い」を求めて病院案内ボランティアをやってみませんか。

エリザベスサンダースホームで思うこと

片貝 顕三 (登録活動会員)



私は11年前に東京から大磯に転居し、その2年後に会社を退職し自由の身になった訳ですが、そんな時、20年程前マレーシアのクアラルンプールで私と同時期に同地で勤務していた大磯在住の石塚さんにエリザベスサンダースホーム(以下ESH)でのボランティア活動をすすめられて参加することになりました。大磯へ転居後にESHの中に立ち入ったのはその時が初めてで、入り口の細い長いトンネルとか、急な山の斜面とか、鬱蒼と茂った林が印象的でした。

ボランティア活動の内容は今と同じく清掃作業が主なものでしたが、兎に角、ESHは広大な土地に多くの木々が茂り、春から夏にかけては小枝や葉の成長が早く場所によって剪定が必要となり、また秋から冬にかけては大量の枯れ葉がたまってしまいその除去が迫られます。従って、このESHの清掃を真

面目にやろうとしたら間違いなく多大な労力と時間を要する筈です。幸い纏め役の石塚さんも心得ていて毎回比較的短時間で終わらせるように配慮してくれているので大変助かります。とは言うものの我々の清掃活動が少しでもESHの美観と安全の維持に役立っているのではないかと自負をしているところです。

それからご存知のようにESHは児童養護施設で、現在約100名の子供達がここで生活しており、清掃活動中にも子供達が興味ありげに我々に寄ってきて話しかけたり、箒を持って清掃を手伝ってくれたり、枯葉を運ぶ時にリヤカーを押してくれたり(乗ったりも)します。そして、毎回そのような子供達を見ると、何らかの事情があって親との絆が断ち切れておりESHで喜んで生活している子供達は少ないのではないかとも思ったり、また同時に悲しいつらい過去の生活から解放されて救われる面もありESHで同じ境遇の中で楽しく暮らしているのかなとも思ったりしています。

いずれにしてもESHの子供達はとても明るく活動的な感じがします。これから子供達の人生には学校、就職、結婚など色々な、時には困難な局面が待ち構えていると思います。でも、この子供達がESHで培った広い心を持って強く逞しく生きて行くことを切望してやみません。

さいたま倶楽部の活動状況

矢田 正博 (中央三井信託銀行 OB)



さいたま倶楽部の活動状況についてご報告いたします。同倶楽部は、設立後ただちに2009年3月11日に第1回目の打合せを行い、現在会員数30名(世話人4名)で活動しております。第1回打合せ以降、本年4月までに20回の打ち合わせを行い活動内容について協議、実行してまいりました。同倶楽部の主な活動内容は、次の4活動です。

- (1) 食育活動: 畑を借りて馬鈴薯・玉葱・茄子・落花生等を植え付けして収穫することです。特に馬鈴薯の収穫時には会員のお子さん、お孫さんにも参加していただき楽しく収穫しました。現在は地主さんの都合により畑を返還しましたので中断していますが、活動を継続すべく畑を物色中です。
- (2) 国際交流: 現在、埼玉大学の留学生7名に対



して、6名の会員のご協力により留学生と交流いただいています。

- (3) 清掃活動：これまでに2回実施しました。2009年10月に「NPO 法人元荒川をきれいにする会」の活動に賛同して、元荒川(さいたま市岩槻区)の清掃を行い、2010年4月は、三貫清水(さいたま市北区)の自然保護と清掃を行いました。この活動については今後も積極的に参加する所存です。
- (4) その他：次の三つの行事を行いました。①川越市歴史の街の散策②大宮鉄道博物館の見学③見沼通船堀公園の桜見物です。これらについても会員の方から企画を提案していただき実行したいと考えております。

以上が設立後2年間の活動状況です。

当面の目標は会員数の増加です。わずかながら増えておりますが皆様の友人・知人にさいたま倶楽部をPRして下さるようお願いいたします。

3月に発生した東日本大震災の被害状況をみてボランティア活動の重要さを深く認識いたしました。何かできることがあれば参加したいと考えております。

さいたま倶楽部は設立後日も浅く活動状況はまだまだですが、皆様のご指導ご鞭撻を得て邁進したいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

関西支部(大阪)

三井V-Netのみなさまへ 退官ご挨拶

神戸大学 名誉教授 瀬口 郁子
(元国際交流推進本部副本部長・留学生センター教授)



葉桜の季節となりました。

その後もみなさまにおかれましては、お変わりなくご多用な日々をお過ごしのことと拝察しております。

過日は、三井V-Netのみなさまをはじめ、大勢の方々のお見送りを受けて神戸大学での生活を無事終えさせていただきました。これもひとえにみなさまのお陰と感謝申し上げます。

2001年1月に百年記念館と併設する形で留学生センター建屋が新築完成し、それ以前から抱いてきた夢を一つずつ叶えるべく、小さな歩みを進めてまいりましたが、その一つが三井V-Netのみなさまのお力を借りることでした。最初は、どこからどのよ

うにお願いすればいいのか、また、大学側の受け入れに関しても環境を整えなければ・・・と思いつつ、他大学から情報を頂きながらも神戸では一人で試行錯誤。しかし、さすがに、長年、プロフェッショナルなボランティア活動をなさっている三井V-Netのみなさまのこと、本当にスムーズに神戸の留学生たちにも支援の輪を広げてくださって感謝いっぱいです。

海外ネットワーク構築の仕事をして10年余り行い、卒業留学生と連絡することも多々あります。3月末には、最後の出張でミャンマーに出かけましたが、ここでもわざわざ家族を連れて遠方から会いに来てくれた卒業生から、三井V-Netのみなさまのホストの方に対する感謝の気持ちを代理でいっぱい頂いてまいりました。軍事政権下で難しい国ではありますが、人々は非常に温かく親切で、日常生活での人々の営み、コミュニケーションについては学ぶべきことが多く、やはりその場に行ってみることの大切さも再認識いたしました。

ミャンマーに関しましては、卒業生の要望を受け、9月下旬に「ミャンマー神戸大学同窓会」が発足の予定で、今後も卒業生との草の根のつながりを大切にしたいと存じます。

最後に、今後もみなさまからのお力添えご指導を賜りますよう改めてお願い申し上げますと共に、みなさまのご健勝と活動がますます発展し実り多いものとなりますようお祈り申し上げます。

神戸大学で 第7回三井V-Net留学生交流会開催

神戸大学で留学生、交流ボランティアに加え大学の先生を来賓に迎え第7回三井V-Net留学生交流会を平成23年2月24日留学生センターで開催しました。三井V-Netの留学生交流に参加したい新たな留学生も加わり総勢35名がお互いの意見交換や懇親を深めました。



ご来賓の大学の先生から下記のご挨拶をいただきました。

神戸大学留学生センター
副センター長 教授 實平 雅夫



本日はセンター長が急用のため失礼をいたしておりますので、私、副センター長の實平がご挨拶を申し上げます。

三井V-Net交流会には毎年出席させていただいておりますが、会を重ねるごとに歴史が積み重なって来たということ、毎回ここに出る度に感慨深く感じる次第でございます。三井V-Netの皆様には、神戸大学の留学生は大変お世話になっておりまして、これはセンター長どころか学長に代わってご挨拶をしなければならないところでございます。

留学生もここ20年人数が増えておりまして、現在神戸大学に在籍している留学生は1200人ほどになり、その出身国・地域は約70です。神戸大学の場合は国立大学法人ですので、国の政策上受け入れを要請されている留学生出身の国・地域というのをごさいます、非常にバラエティに富んでおります。三井グループは非常に大きな企業グループでございますので、ここにいらっしゃいます三井V-Netの皆様も色々な所で、色々な分野で、色々なお仕事をなさって来られた方々だと思います。神戸大学は大学院の数が全部で14ございます。1200名の留学生の中で大学院生が圧倒的に多い大学です。学部生が100人少々で90%以上が大学院の学生です。その留学生が、日頃自分の専門分野の勉強や研究に励んでおりますが、今は非常に専門分野が細分化されておりますので、外国語で留学生と話しても分からないことが多いので、それを教えてもらうために日本語を教えているのが私の仕事のようなところもあります。それも私の一つの楽しみですが、そのような色々な分野を志している留学生と、様々な経験をされた企業の方々との交流という三井V-Netの志は非常に有意義であると思います。なかなかこういうことをやりたいと思っても出来るものではなくて、しかもそれを好意に甘えてばかりというのが神戸大学の立場で誠に恐縮ですが、留学生も非常に充実した毎日を送ることが出来ております。他の交流団体のイベントをみてみますと、一回限りで花火のように点で終わることが多いのですが、三井V-Netの皆様の交流というのはそうではなく、日頃日常のお付き合いで、そこから始まる交流ということが、一つの特徴ではないかと毎回感じております。そうするとお互い肩肘張らず、言いたいことも言えるし、分からないことがあっても恥ずかしがらないで聞けると、そこが一番良いのではないかと私は感じております。今日もまた新しく来ている留学生でどなたとペアになるかわくわく

しながら心待ちにしている者も、先ほど澤野井様からご紹介がありましたけれども、また新たによろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、これからも本学のためにご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、貴会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。どうも有難うございました。



大阪府済生会中津病院でのボランティア

梅津 嘉一郎 (三井住友海上 OB)



この平成23年4月で済生会中津病院でのボランティア活動が7年目を迎えます。今思うとあっという間の6年間でした。始めたころ中津病院はボランティアを受け入れてからまだ1年でしたので人数も少なく、活動範囲もロビー案内が主でした。

ボランティア活動をして間もなく、手術を受け3週間近くの入院を経験しました。その中で病院の有難さ、また、病院の先生、看護師の方の大変さも知りました。そこから中津病院でのボランティア活動の基本を「患者」と「病院」を繋ぐことを私は基本としました。病院に来られた方は何らかの不安を感じておられる方が多いと思います。不安を少しでも和らげ、安心して診療が受けられるように精神的な面でのお手伝いをしてきました。患者さんの中には病院に不満がある方がおられますが、ボランティアが間に入りますと不満も和らぐようです。患者さんの笑顔とお礼の言葉はボランティア冥利に尽きまず。

中津病院でのボランティア活動も年数が経つにつれロビー案内が主でしたものが今では活動種類も10数項目を超えてきました(病室への巡回図書・お茶サービス・インターネットサービス等)。登録人数も40名を超えました。その中で三井V-Netからのボランティアも7名おります。病院からも三井V-Netに対して大きな評価をいただいております。これから多くの方の参加が待たれます。

週1回のボランティア活動ですが生活にメリハリがつき有難く思っております。あと何年出来るかわかりませんが出来るだけ頑張っていくつもりです。



人と人のまんなかに。

須磨海岸クリーンアップに参加して

田渕 和稔（三井造船関西支社 現役）



2011年4月17日に行われました須磨海岸クリーンアップに三井造船、グループ会社の社員および家族の総勢14名が参加しました。私は昨年に引き続き今回で3回目の参加で当社グループとしては過去最大の参加者数となりました。

当日は、春の心地よい晴天で、動くとき少し暑いぐらいの気温の中、全体で約600名がごみ収集と分別を行い、これから始まる海水浴シーズンを迎える砂浜の清掃に一役買いました。

清掃した場所にもよると思いますが、前回と比べて、釘・ネジ等の金属片が多く、たばこの吸殻が意外と少ない印象を持ちました。私の息子は今回が初参加で少し戸惑っているようでしたが、小さい手で大人では見逃してしまいそうな、針金やピンを見つけては夢中でごみ袋に入れていました。終わってから「また参加したい」と私にとって嬉しい感想を聞くことができました。個人で集める量は少ないですが、清掃終了後集められたごみを見て達成感が湧いてきました。『小さなことからコツコツと』を改めて実感し、清々しい気持ちで帰宅しました。また参加したいと思えるクリーンアップ活動でした。

当社行動規準に『地域との共生（地域社会の一員として行動する）』があります。私も今回の活動で地域の皆様と共に活動する機会を得て、さらにモラルを高めて、少しでもごみを減らす・出さないとの気持ちで、身近なところから社会貢献を行いたいと考えています。これからも三井V-Netのためにご協力が出来ればと思います。



日本プロゴルフ選手権ボランティア

澤野井 潤一（日本ユニシス OB）

大正15年以來日本で最も歴史があり、プロゴルフファアにとっても最高の権威がある、日本プロゴル



フ選手権第79回大会が平成23年5月に兵庫県小野東洋ゴルフ倶楽部で開催されました。三井V-Netから5名がボランティアとしてチャリティー

ショップ、スコアラー、選手練習場、ギャラリー誘導に参加しました。私は4番ティーインググラウンドで選手入口を担当しました。選手やキャディーからは「こんにちは!ご苦労さま〜」とボランティアにも気さくに声をかけて頂くことが多いのには恐縮しました。こちらからも「頑張っ!」「先のバーディー良かった!」とエールを返しますと、キャディーから選手のサイン入りボールやPGA公式のティーを頂くことがあり、応援にも熱が入ります。ギャラリーからは「石川遼は今何番ホールへ行けば見られますか?」と何人からも同じ質問ばかりで石川遼の人気の高さを実感しました。メジャー最年少優勝となるか石川遼が注目されましたが結果は12位で、河井博大が初優勝しました。

テレビ中継で各ホールの風向風力が表示されるユニシス・ウインドスティックシステムの技術者が「UNISYS」のゼッケンを付けて風向風力を測定しているのを見かけたところ、OBとして思わず激励の声をかけました。

今回の日本プロゴルフ選手権大会は東日本大震災の被災地復興のため、日本ゴルフ界合同の震災復興支援チャリティープログラム「グリーン・ティー・チャリティー」協賛として開催されました。選手、キャディーはじめ416名のボランティアも標語「Green Tee Charity 日本のゴルフが日本のチカラに」のワッペンを付けてゴルフを通じて、希望と復興の力を提供することを発信しました。本大会では賞金から1500万円とチャリティーショップやチャリティーイベントの売上が寄付されました。グリーン・ティー・チャリティーはゴルフ界が力を合わせ、義援金50億円以上を目標としているそうです。ボランティアとして本大会に参加することで、間接的ですが東日本大震災の被災地への応援ができればと思いました。

中国支部（広島）

ボランティアコーディネーターカUP セミナーに参加して

竹野下 邦子（中国支部）

3月5日（土）、広島市ボランティア情報センター

主催のボランティアコーディネーター力UPセミナーを受講しました。参加者は14名で仲間が増えないとか、続かないと悩みながら各方面でボランティアを担当している人たちです。「ここに行くと元気が出る」と評判の現場から活動のヒントを学ぶのがセミナーの目的です。



まずNPO法人もちもちの木「古田のおうち」を訪ねました。このもちもちの木はグループホーム、デイサービス、ヘルパーステーションなど12ヶ所の介護施設を運営されている所です。竹中庸子代表からは、小規模で顔の見える関係を大切にふつうに暮らせるしあわせを守り、やさしい心で小さな活動を続けていきたいという思いを聞きました。9人で共同生活をされているグループホーム、子育て支援用の中庭、地域交流サロンなど施設の活動現場を見学しました。

その後広島駅前の愛友市場にある「ふれあい工房」へ移動し、「古田のおうち」お手製弁当とカープうどんをみんなで美味しくいただきました。市場の空き店舗を利用した交流広場では、カープちんどん屋さんたちと市場内を見学し、紙芝居(元カープの長谷川良平物語)で楽しい時を過ごしました。世話人代表の真宅成光さんは、すべてを受け入れて色々なイベントを通し、地域の多世代の人々が盛り上がる交流広場作りを目指されています。



お二人とも代表として何もしていない、計画や準備はあまりしないで自発性を引き出す、何でも肯定的に受け入れていたら元気いっぱい楽しい仲間が集まったそうです。気楽に活動していると明るくお話しされるが見えない所では苦勞も多く根気強く継続された様子が良くわかりました。元気のひみつはまだ沢山あるはずですが、私がボランティアを続けていくのに、このセミナーは大変勇気づけられるものでした。

これからもセミナーやボランティアに参加し他の団体で活動している人たちともつながりボランティアの輪を広げていきたいと思っています。



銭太鼓“スリーコインズ”について

細川 洋子 (三井物産 OG)



銭太鼓のグループ「スリーコインズ」は現在10数名の方々と一緒に練習を重ねるなど、いろいろなところで活動しています。

スリーコインズの名前の由来はスリー(銭太鼓、南京玉すだれ、腹話術)の方と活躍していることと三井ボランティアの「三」も考えてつけました。コインズは銭太鼓のバチの芝に5円玉が10数個入っていることと練習する教室がコイン通り(広島市佐伯区造幣局通り)にあることから名付けました。



最初は和の銭太鼓とスリーコインズの洋の名前で少し違和感があるように思われましたが、

今ではすっかり皆様に馴染んで頂いております。

公民館、いきいきサロン、ふれあいプラザ、病院入院棟、そして介護施設など毎月1～2回のペースで銭太鼓ボランティアとして伺っています。

私たちの拙い芸で皆さん(お客さま)が笑顔になり明るく、楽しい時を共有できることで少しでもお役に立てているのだと幸せな気持ちになります。これからも若さを維持して続けてまいりたいと思います。



三井V-Netの会員で元事務局におられた細川さんが当会員の皆さんと一緒に、団体を組織して活動されています。今回、名前の由来を含めて投稿頂きました。

中国支部

「2011 マーガレットコンサート」

障害者と広島交響楽団との

ジョイントコンサートのボランティア

黒瀬 睦 (中国支部)

日中雪が降り続く中、広島市主催の「2011 マーガレットコンサート」が1月30日(日)に広島国際会議場フェニックスホールで開かれました。午後3時の開演で2時からの開場にあわせ、来場者の案内・



人と人のまんなかに。

誘導や会場内での障害者の介助、車いす介助のボランティアをする約30名が全般的な説明を受けたあと担当ごとに分かれ再度細かく説明を受けました。

ホール3階席〈全自由席〉での客席案内と管理を広島市職員大西さんのもとの吉岡さんと二人ですることになりました。約250席は障害者の方、付き添いの方でほぼ埋まりましたが、席が3階であること、階段の1段が少し高いこと、階段に手すりがないことなど障害者にとって移動が大変でした。

第1部広響演奏はヨハン・シュトラウス2世のワルツ「美しく青きドナウ」、ブラームスのハンガリー舞曲第5番など6曲の演奏を聴き、休憩後第2部では障害者の方々とジョイントで太鼓「百人太鼓」、合唱「さんぽ」、「夢の世界を」など手話を交えて演奏されました。

約1500名の観客の中には立ち上がり手拍子で体を揺すり楽しんでいる人もいました。中でも太鼓の大きい響きには皆がとても喜んでいる様子でした。

事前の説明で演奏中は出入口付近に立ち、曲と曲の間で入退場をして頂くことになっていましたが、演奏が始まると子供さんがトイレに行くため何度もドアの開け閉めをしてしまいました。障害のある子供さんには柔軟に対応しなくてはいけないことを学びました。障害をもっている子供さんが楽しんでいる様子を見て、お手伝いした私たちもコンサートを楽しむことが出来ました。コンサート終了後観客の皆さんから「ありがとうございました」、「お世話になりました」のうれしい言葉をかけていただき一日の疲れも癒されました。



2回目の清掃活動に行きました (広島平和記念公園／2011.2.20)

濱根 七穂 (8歳)、果穂 (4歳)
(東芝エレベータ 濱根浩二様のお嬢様)

2回目の清掃活動に行きました。歩いているところにはごみが落ちてなかったけど、草の中にはたくさんありました。カメラや靴などが落ちていたのでびっくりしました。何でゴミ箱に捨てないのかな、

と思いました。

4歳の妹はごみを見つけると怒ってたので、私が落ちてないほうがいいんだよ、と教えてあげました。毎日掃除をしている人は大変だなと思います。みんなごみ箱に捨てたら掃除しなくていいのに。



学校みんなにもごみは捨てたらダメだよって教えたいです。

広島平和記念公園清掃活動に参加して

渡邊 千恵子 (登録活動会員)
高崎 優子 (登録活動会員)



(後列左 渡邊さん・
後列中央 高崎さん)

同じボランティア仲間の澤田さんに紹介していただき、広島平和記念公園清掃活動に初めて参加したのは今年の5月です。早くも一年が経とうとしています。

ただ街に出かけて、ショッピングやランチにおしゃべりだけではつまらないような気がして、「何か出来ることがあれば、役に立てることがあれば」と思い場所的にも時間的にもちょうどいいのかなとの思いで、参加の動機は至って不純なものでした。まだまだ数えられる程の参加ですが、広島に住みながらあまり訪れることのなかった広島平和記念公園の四季折々の季節感を味わいながら、おしゃべりも白熱しながらのごみ拾い。あつてはいけないごみを発見したときはなぜだか嬉しい気分です。

最近ではお互い「第3日曜日、9時半にバス停でね」と暗黙の了解になり、参加の度に充実した一日でも楽しみになっています。

参加者の方々も老若男女あり、学生さんや特に子供連れのお父さんには微笑ましくてとてもステキな情景が広がっています。色々の方々それぞれの思いで一つのことを成し遂げることに清々しい気持ちになり感動している自分がいます。今後も出来るだけ参加させて頂こうと思っています。徐々に生きがいの一つになりつつあります。出来ることから、自分に正直にボランティア活動が出来たらいいなと思っています。参加する度に事務局の方々の笑顔と心優しい対応に感謝の気持ちでいっぱいです。



広島平和記念公園の清掃ボランティア 50回を迎えて

上村 脩三 (中国支部)

平成18年当支部を開設した翌月、HPS国際ボランティアとの協働で第2日曜日に活動開始、途中平成22年2月から単独で第3日曜日に活動を変更したが、50回まで約4年半の間、雪・雨天で活動を中止となったのはたった3日間で大変天候に恵まれたといえる。

初回は、当事務局員3名を含めて7名の活動であったが、50回までの総延べ人数は926名となり、1回あたり19名の参加活動となっている。特に、平成19年1月から東芝エレベータ(株)中国支社現役の参加を得て活動人数は倍増した。同社の総延べ人数は449名で、参加活動総延べ人数の半数を占めている。

特筆すべきは、同社社員の家族参加も回を重ねる毎に増え、50回目には5組の家族が参加、活動もより楽しいものになった。

今後も本活動を続けていきたいと考えているが、OB会員の増加もさることながら現役の参加が増えれば、もっともっと楽しい活動になると思う。



若者の力で平和記念公園をきれいに

広島経済大学興動館 太田川キレイキレイプロジェクト
古川 愛 (登録活動会員)



(前列左 古川さん)

今回初めてこのボランティアに参加したが、まず初めに人の多さに驚いた。自分たちはまだ団体としてはとても小さく、清掃をする時も参加者はほんの10名程度で範囲もとても狭い。それと

違い三井ボランティアはとても多くの参加者で、範囲も広がった。いつも狭い範囲の清掃をしているので、とてもやりがいのある清掃だったので、とてもやりがいのある清掃だった。今回参加した8名のメンバー全員が初めての参加で、なんとなくイメージのつかめないままのスタートだったが、後から聞いてみれば、とても充実した清掃だった、やりがいがあったという言葉ばかりだった。

平和記念公園周辺ということで、あまりごみも落ちてないかと思っていたが、花見客のものなのか通行人のものなのか、タバコの吸い殻が目立った。また、お菓子の包み紙やペットボトルなども多くあった。その中でメンバーが一番驚いたのが、設置してあるごみ箱からあふれているごみだった。明らかにごみ箱はごみでいっぱい、ふたも閉まらない状態だった。その上ごみ箱の周りにはペットボトルや缶・お菓子の包み紙・弁当殻などがこれでもかというくらい捨ててあった。

これからは毎月積極的に参加し、隅々まで目を向け、平和記念公園を今以上にきれいにしていこうと考えている。





事務局便り

就任のご挨拶

山崎 俊一（三井住友海上 OB）



木村堅二前事務局長の後任として事務局長に4月1日就任いたしました。

ボランティア活動は新しい分野ではありますが、これからひとつひとつ教えていただき全力で取り組んでまいりたいと存じます。

さて、先日の大震災には大変びっくりいたしました。改めて日本人の「助け合い」、「思いやり」の心に感動いたしました。

皆様が日頃携わっておられるボランティア活動もこれに通じるものでありボランティア活動を通じて社会貢献をされていることに敬意を表させていただきます。

三井V-Net事務局は、今後とも全員で皆さんのボランティア活動を支えていきたいと存じますのでよろしくお願ひ申し上げます。

昨年三井V-Netは創立15年を迎えましたが、経済・社会情勢及び年会費等が影響し近年会員会社の休退会が相次ぎ三井V-Netの運営は大きな岐路に立っています。設立当時に戻すためには、会員会社の復会及び新たな企業の入会を促すためには皆様の活動が三井グループの社会貢献と結びついた活動であることをアピールいただくことが必要です。活動の際には三井グループのアピールをよろしくお願ひしたいと思います。

最後になりますが、不慣れな点や皆様にお力添えいただくことが多々あると思いますので、これからよろしくお願ひ申し上げます。

退社後の豊かな時間に感謝して

木村 堅二（三井物産 OB）



2006年6月16日開催の三井V-Netの理事会の承認を得て事務局長に就任しました。ボランティア活動自体は私にとって初めてのことでないので難しい仕事ではなく、2011年3月末退任までの5年9ヶ月を登録会員の皆様をはじめ事務局員の皆様と一緒に楽しく過ごすことが出来ました。会員の皆様は各社のOB及びOGが主体ですが、ボランティアに興味をお持ち

の皆様は素晴らしい人柄の持ち主の方が多く、流石、三井グループ各社で活躍された方々だと改めて感激しました。勿論、そうでない方も居られました。

私自身、そうでない一人として、気が短く、人の話を最後まで聞けない、我が儘な性格の持ち主ですが、登録会員の皆様からの多くのご指導を受け、退任する頃には少しばかり丸くなったかなと自分を顧みることが出来るようになりました。また、この世の中、一人では何も出来ないことも知らされました。新たに設立された運営委員会の各社の現役の方々から多くのお知恵やお力を貸して頂きました。今日、何とか無事に退任することが出来ましたのは関係者皆様の温かいご支援とご協力があったからと今になって感謝しております。

三井V-Netの事務局は去りましたが、これからも三井V-Netは勿論ですが、(財)全日本リトル野球協会、経団連1%倶楽部、日本チャリティ協会等のボランティア団体へのお手伝いを続けます。そして新しい仲間がまだまだ増えることを今後の人生の楽しみとしております。

世の中で生きていくだけで人の邪魔になっているとの自覚を持ち、幾らかでも邪魔にならないように努め、また、出来るのであれば、少しでも世間のお役に立つような余生を過ごしたいと考えております。これからもよろしくご指導頂きますようお願い申し上げます。

今後の三井V-Netの登録会員皆様の益々のご隆盛とご多幸をお祈り申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局での5年間

高橋 麻子（三井物産 OG）



2006年4月より2011年3月までの5年間、事務局で様々な事に携わらせて頂きました。私は三井V-Netスタート時より、一ボランティアとして活動に参加していた延長線上でしたので、苦勞なく、楽しく過ごさせて頂き、あっ!と言う間の5年間でした。世の中は短いようでも5年の間に様変わりいたし、経済の低迷が続く中、三井V-Netでも大きな改革がありました。

東日本大震災や福島原子力発電所などの様々な困難と不安が予想される今後ですが、明るく、楽しくをモットーに一メンバーとして、協力をさせて頂こうと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



人と人のまんなかに。

本部(東京)事務局員の担当業務紹介

事務局員の交代がありましたので、各担当業務を紹介します。

川端 康之：千葉大部会、千葉倶楽部部会、千葉大付属病院、一木会関連業務(幹事会・例会)、HPの更新等業務、運営委員あて各種報告発信窓口

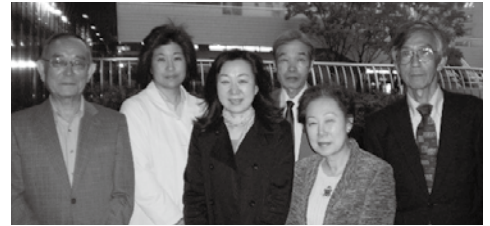
林 英彦：東大柏部会、駒大部会、手話教室・講座の開設業務(仲介)、竹トンボ教室の開設業務(仲介)、本部月次活動記録取りまとめ

高橋 勝栄：東大国際センター部会、クリーンアップ活動(多摩川・荒川)、日赤医療センター・東大付属病院、日本チャリティ協会関連業務、ニュースレター制作・配布関連業務

板倉久美子：人事・経理関連業務、さいたま倶楽部部会、民際センター関連業務

林 弘子：横国大部会、湘南倶楽部部会、奥多摩倶楽部部会、横浜日赤病院

田邊 留美：日本語サロン部会、総務関連業務、新規登録会員関連業務、会員名簿管理、事務局長補佐(理事会・運営委員会名簿管理)



左から：高橋、田邊、板倉、林英彦、林弘子、川端

2010年度ダルニー奨学金支援



奨学金を受けたラオスの子供達

三井V-Netでは書き損じハガキ、未使用切手および使用済みインクカートリッジ等を集め、一般財団法人民際センターの「ダルニー奨学金」を通じて、タイ・ラオス・カンボジアの国々の子ども達の就学の支援をしています。2010年度のダルニー奨学金の支援状況は、従来からの三井V-Net基金等も含めて、タイ17名・ラオス16名・カンボジア4名の合計37名の子ども達に奨学金を提供することが出来ました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

先だっては、子ども達の卒業にあたってのお礼状をいただきました。今後も継続して奨学生達の支援が出来ますよう皆様の暖かいご協力をよろしくお願い申し上げます。一木会の受付でも、書き損じハガキ・インクカートリッジ等をお受けいたしますので、少量でも構いませんので、ご持参いただければ幸いです。

予告 エリザベスサンダースホーム「第5回チャリティーコンサート」開催のご案内

三井V-Net湘南倶楽部では大磯のエリザベスサンダースホームで第5回のチャリティーコンサートを下記のとおり開催いたします。

別途ご案内いたしますが皆様お誘い合わせのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、チャリティーコンサートの収益金はホームに寄付いたします。

記

- 1: 日 時 2011年10月30日(日) 14時開演予定
- 2: 会 場 聖ステパノ学園「海の見えるホール」
JR大磯駅下車、徒歩5分
エリザベスサンダースホーム内
- 3: 演奏者 島田 彩乃(ピアノ)、島田 玲(ピアノ)
小川 和久(ヴァイオリン)、竹原 奈津(ヴァイオリン)
- 4: 演奏曲目 モーツァルト:トルコ行進曲
ブラームス:ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25
その他



第4回コンサートの演奏風景

編集責任者：山崎 俊一

三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層に対してボランティア活動を紹介・仲介・斡旋するとともに、三井V-Net独自のボランティア活動を企画・立案・実行することによって、シニアの豊かで健康な生きがいを感じられるよう支援を行い、三井グループ全体の社会貢献活動に資することを目的としています。ボランティア活動会員登録に関しましては入会金および年会費等は不要です。

ボランティア活動会員登録票		FAX		(関東地域) 03-5570-8035	(関西地域) 06-4396-8681	(中国地域) 082-222-5101
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中 貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。						
記入日 20 年 月 日						
氏名	(フリガナ)	生年月日	19	年	月	日
	-----	性別	[]	男	・	[]
住所	郵便番号	-				
自宅電話番号	-					
自宅FAX番号	-					
携帯電話番号	-					
E-Mail Address						
出身企業						
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)						
希望するボランティア	①	[]	国際交流(留学生と日本語を通じたの交流・文章作成の支援等)			
	②	[]	環境保全(河川敷・海岸等の清掃、水源林地域保全活動)			
	③	[]	医療・福祉(病院外来の案内・図書整理等、福祉施設内の草刈・清掃等)			
	④	[]	文化・教育(文化施設での手伝い、発展途上国の教育費支援)			
	⑤	[]	その他ご希望される活動をご記入して下さい			

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

三井ボランティアネットワーク事業団

本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル4階
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5階
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>